

生い立ち

向学心

トクヨは1880年(明治13年)12月5日宮城県志田郡三本木村(現在は大崎市)に生まれた。豊かな米どころの静かな村に暮らすトクヨであったが、父親が不在がちであったために母を助けて幼い兄弟たちと苦労することとなる。



母 きん
子女4人を抱え大家族を支えるのに苦労した。一家離散後は金沢・仙台・東京に転々。晩年はトクヨを助けて体專の賄いをとりしきった。
昭和18年没



父 保治
村長時代(30代)
明治38年没



生家の一部を移築した
菩提寺大光寺の庫裡



生家の入口
向かって右の丘の上に、
笠のように枝を広げた
古松があった

1895年(明治28年)8年間の小学校課程を終えたトクヨは、尋常小学校准教員の検定試験に合格、15歳という若さで教師となる。トクヨは正教員になりたいと願っていたが、当時宮城県では女子師範学校が廃止されていた。トクヨは大胆にも、福島の新聞社福島民報に嘆願の手紙を書いて社長の小笠原貞信の養女となり、福島県師範学校に入学することができた。[1909年(明治42年)復籍]

展示品リスト

- ・自筆短歌
「野火」大磯の 浦風なぎし 小夜なかに ちいさく見ゆる 箱根路の野火
- ・自筆短歌
「卯花混月」月見むと やり戸ひらけば 卯の花の ゆきもとれる こよひなりけり
- ・小学校時代のエンピツ画 「耳・口」「手」「足」
- ・女高師文科生時代のノート 「衛生」「漢文」
- ・自筆短歌
「新年の海」さし染むる としのはつ日に わたの原 波もあらたに 立ちかへり行く
- ・書類 「卒業証書」「教員免許状」「辞令」 各種



福島師範学校生徒時代(17歳)

トクヨは福島師範学校卒業後、安達太良山の麓の油井小学校で教えた。その時担任した長沼ミツの姉、智恵子(13歳)とも親交を結んだ。この交わりは、後に高村光太郎・智恵子という芸術家夫妻との交わりとなって、生涯を通じて続いた。



少女時代の高村智恵子
智恵子本人からの写真、裏書きに「小笠原先生に奉る 智恵子」とある

体操教員トクヨの誕生

トクヨは1904年(明治37年)3月、「お茶の水女子大学」の前身である東京女子高等師範学校の文科を卒業した。在学中は、将来は歌人になるのかと思われたほどの文学少女であった。最初に赴いた任地、金沢の石川県立高等女学校では体操も教えることになったが、この頃のトクヨは、体操を知的教科でないと嫌い軽んじていた。ところが、覚悟を決めてやってみると、体調が良くなり持病の「神経衰弱」も治ったのである。



女高師文科生時代 級友とともに(後列右から3番目)